

第5回平方北小学校再編検討協議会

1

【第5回 協議会の内容】

- ① 本協議会の役割とスケジュールについて
《質疑・応答》
- ② 他自治体の事例について
《質疑・応答》
- ③ 中学生向けアンケートの結果について
《質疑・応答》
- ④ 協議

2

本協議会の役割とスケジュールについて

3

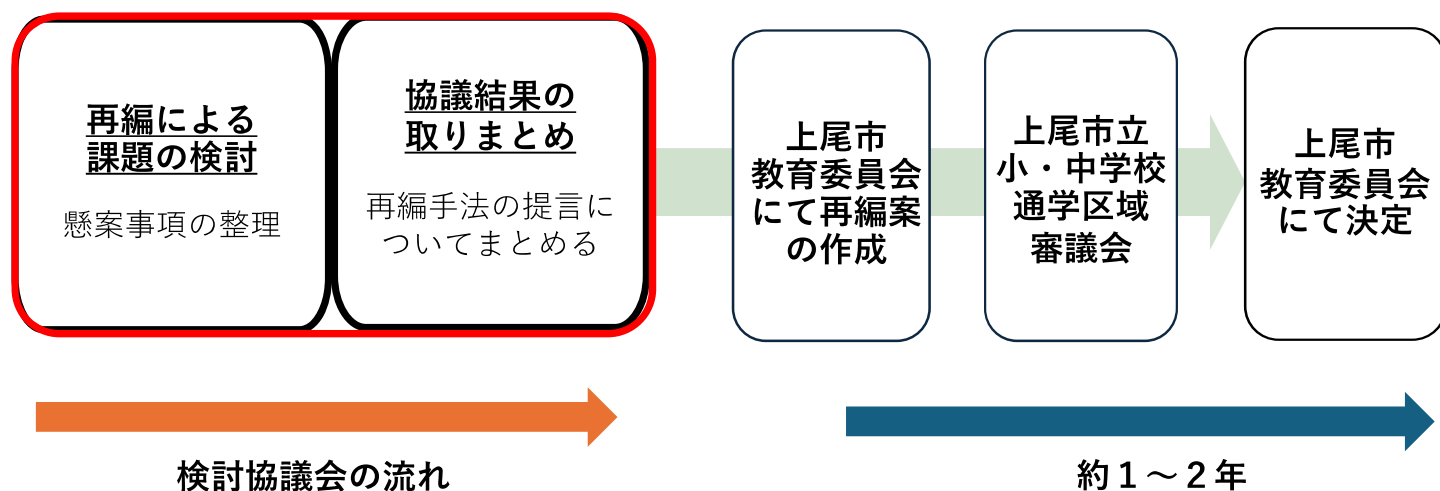
○検討協議会の役割

子供たちの学びに望ましい学校規模を実現するため、
平方北小学校の**学校再編を協議**し、その内容を**取りまとめる**こと。



4

○協議会とその後の流れについて



5

○具体的なスケジュールについて

	日程	協議内容
第5回	5月30日 15：00～	・再編による課題の検討
第6回	7月29日 15：00～	・再編による課題の検討
第7回	9月30日 15：00～	・再編による課題の検討
第8回	12月2日 15：00～	・協議結果の取りまとめ
第9回	2月3日 15：00～	・協議結果の取りまとめ
第10回	未定 (4～5月)	・予備日

6

質疑応答

7

他自治体の事例について

8

学校規模適正化のための統廃合や学区調整に関する調査

回答数：県内 61 市町村

団体数

学校規模適正化のため、統廃合をした学校がある

25

小規模となった学校を存続するために学区調整をした学校はある

2

0 5 10 15 20 25 30

統廃合をしてみて感じたメリット・デメリットについて (児童・教員に関すること)

メリット

- 学校の数が増えることで複式学級が解消された。(4件)
- 多様な人間関係が築け、切磋琢磨する機会が増えた。(2件)
- 多くの児童との交流ができ、集団の活動で活気あふれる活動ができる。(3件)

デメリット

- 児童の仲間意識の壁を解消するのに時間がかかった。(1件)
- 通学区域拡大による児童・生徒の通学時間の増加。(5件)

統廃合をしてみて感じたメリット・デメリットについて (行政・地域に関すること)

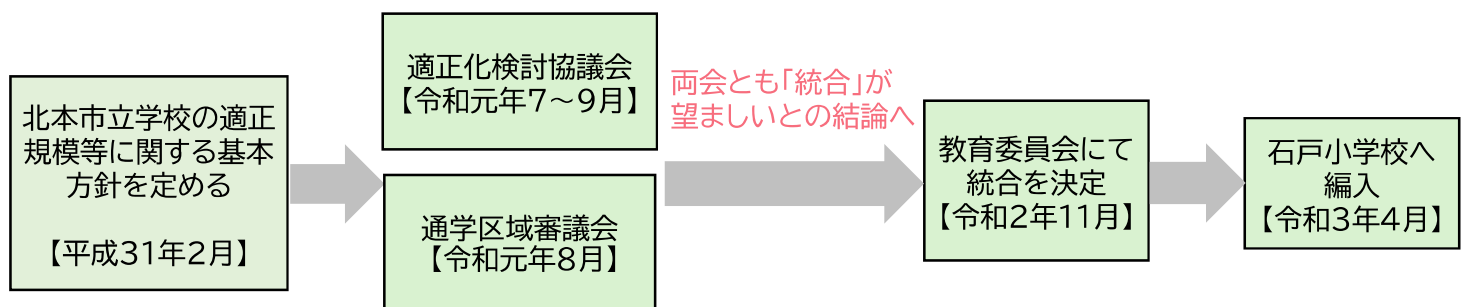
メリット

- 学校の数が増えることで事務量、管理運営費の削減が見込める。
(11件)

デメリット

- 学校の備品廃棄作業及び跡地活用に係る事務負担が増加した。
(3件)
- スクールバスの費用負担・事務量が増えた。(3件)
- 歴史のある学校がなくなってしまう場合がある。(1件)

統廃合した事例：北本市(栄小学校)



平成31年度学級編成

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援	合計
児童数	3	9	14	10	13	14	3	66
学級数	1	1	1	1	1	1	1	6

北本市立栄小学校規模等適正化検討協議会の流れ

第1回

- 北本市立学校の適正規模等に関する基本方針について
- 栄小学校の現状や規模等に関する適正化について

第2回

- 学区再編・学校統合の検討・協議について
学区再編(栄小学校の通学区域を見直し、適正な児童数・学級数を確保する場合)と、
学校統合(同じ中学校区の小学校や隣接する小学校へ統合する場合)を検討・協議
⇒「**学校統合**」の方法で適正化を進めることについて合意

第3回

- 学校統合により生じる課題への対応について
- 統合対象校(「石戸小学校」と「南小学校」)の検討・協議について
⇒「**栄小学校**」を「**石戸小学校**」へ統合する方法で適正化を進めることについて合意

学校規模適正化のための統廃合や学区調整に関する調査

回答数：県内61市町村

団体数

学校規模適正化のため、統廃合をした学校がある

25

小規模となった学校を存続するために学区調整をした学校はある

2

0 5 10 15 20 25 30

学区調整をしてみて感じたメリット・デメリットについて

メリット

- 少しでも適正規模に近づけていくことができた。
- 地域と学校の結びつきが強くなった。

デメリット

- 多様な児童を受け入れることになっている。
- 配慮を要する児童の選択肢となってしまうことが多く、小規模校の負担が増える。

学区調整した事例

県内自治体の事例①

取組：市内の児童の希望があれば入学できるようにした。

結果：人数が集まらず複式学級となった。今は他学校との統合を検討している。

県内自治体の事例②

取組：山間部の学校を残すため、市街地の学校の児童を希望があれば通えるようにした。

結果：山間部のため別の学校と統合は難しく、複式学級のまま存続している。

参考：上記の取り組みをしている学校の児童数と学級数

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
A小学校	児童数	3	4	4	6	3	3	23
	学級数	1	複式	1	複式	1	複式	4
B小学校	児童数	1	6	5	6	8	5	31
	学級数	1	複式	1	複式	1	複式	5
C小学校	児童数	15	10	19	11	19	11	85
	学級数	1	1	1	1	1	1	8

質疑応答

17

中学生向けアンケートの結果について

18

○アンケートの概要

クラス数に関するアンケート

調査目的：単学級から複数学級へ変わったことによる影響の把握

対象校：太平中学校、大石南中学校、瓦葺中学校

（学区に平方北、尾山台小学校を含む学校）

調査対象：対象校の中学１年生から３年生

調査内容：**クラス数について、クラス替えについて**

○アンケートの設問

設問１ 小学校の時にはクラス数が１クラスの場合と２クラス以上ある場合はどちらが良いと思いますか。

設問２ 設問１で答えた理由を教えてください。

設問３ 小学校の時にはクラス替えができて（できる方が）良かったと思いますか。

設問４ 設問３で答えた理由を教えてください。

○アンケートの期間と回答率

アンケート期間：令和7年5月8日（木）～16日（金）

アンケート対象者数：710人

アンケート回答者数：635人



回答者数 内訳

単学級のみを経験した生徒	176人
単学級・複数学級両方経験した生徒	58人
複数学級のみ経験した生徒	401人

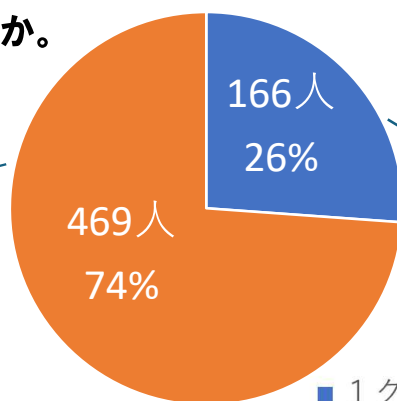
アンケート回答率：89%

21

○アンケート調査の結果について（全体の集計結果）

設問1 小学校の時にはクラス数が1クラスの場合と2クラス以上ある場合はどちらが良いと思いますか。

2クラス以上が良いを選んだ生徒内訳		
単学級のみ	71	(15.1%)
単・複両方	31	(6.6%)
複数学級のみ	367	(78.3%)



1クラスが良いを選んだ生徒内訳		
単学級のみ	105	(63.3%)
単・複両方	27	(16.3%)
複数学級のみ	34	(20.5%)

2クラス以上が良いを選んだ理由

303 (64.6%)	たくさんの友達をつくらことができる。
326 (69.5%)	毎年、新しい友達と出会うことができる。
120 (25.6%)	たくさんの先生から勉強を教えてもらえる。
130 (27.7%)	自分がやりたいクラブ活動や委員会活動を選ぶことができる。
227 (48.4%)	大人数で運動会や音楽会ができる。
164 (35%)	いろいろな人の意見を聞くことができる。
18 (3.8%)	回答しない
41 (8.7%)	その他

1クラスだけ 2クラス以上

1クラスが良いを選んだ理由

60 (36.1%)	いろいろな学年の友達と交流できる。
146 (88%)	仲の良い友達などとずっと同じクラスでいられる。
33 (19.9%)	一人ひとりの活躍（かつやく）の場が増える。
41 (24.7%)	先生に相談や質問をしやすい。
64 (38.6%)	校庭や体育館を使える回数が増える。
4 (2.4%)	回答しない
15 (9%)	その他

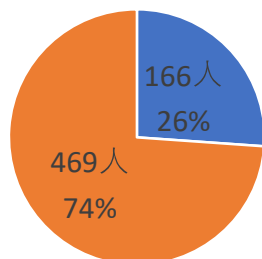
22

○アンケート調査の結果について（全体の集計結果）

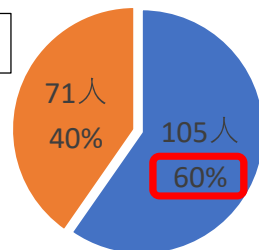
小学生時代のクラス数別

設問1 小学校の時にはクラス数が2クラス以上あるのと1クラスの場合はどちらが
良いと思いますか。

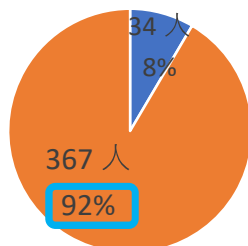
全体



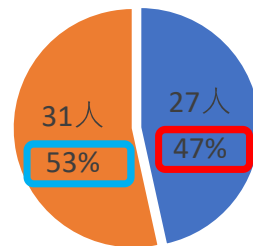
小学校の時1クラスだった生徒



小学校の時2クラス以上
だった生徒



1クラスだけの時と2クラス
以上の時があった生徒



■ 1クラスだけ ■ 2クラス以上

23

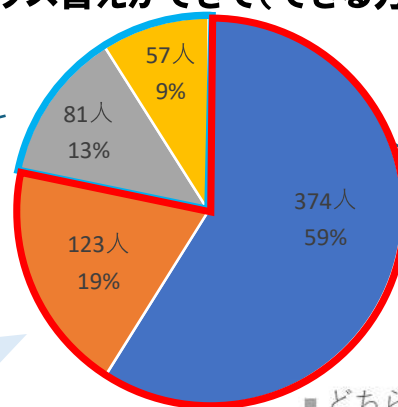
○アンケート調査の結果について（全体の集計結果）

設問3 小学校の時にはクラス替えができて(できる方が)良かったと思いますか。

そう思わない・どちらかという
そう思わないを選んだ生徒内訳

単学級のみ	97	(70.3 %)
単・複両方	23	(16.7 %)
複数学級のみ	18	(13 %)

「そう思う」「どちらか
というと思う」合わ
せると **78%**



そう思う・どちらかというと思う
そう思うを選んだ生徒内訳

単学級のみ	79	(15.9 %)
単・複両方	35	(7 %)
複数学級のみ	383	(77.1 %)

■ そう思う ■ どちらかというと思う ■ どちらかというと思わない ■ そう思わない

そう思う・どちらかというと思うを選んだ理由

381 (76.7 %)	新しく仲の良い友達ができるから
255 (51.3 %)	気分が変わり頑張ろうと思えるから
274 (55.1 %)	クラスの雰囲気を変えられるから
205 (41.2 %)	新しいことに挑戦できるから
71 (14.3 %)	勉強に集中できるようになるから
22 (4.4 %)	回答しない
19 (3.8 %)	その他

そう思わない・どちらかというと思わないを選んだ理由

100 (72.5 %)	仲の良い友達とクラスが離れてしまうから
82 (59.4 %)	新しい環境に慣れるまで時間がかかるから
24 (17.4 %)	勉強に集中できなくなるから
9 (6.5 %)	回答しない
11 (8 %)	その他

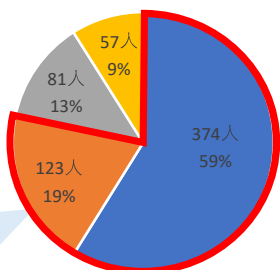
○アンケート調査の結果について（全体の集計結果）

小学生時代のクラス数別

設問3 小学校の時にはクラス替えができて(できる方が)良かったと思いますか。

全体

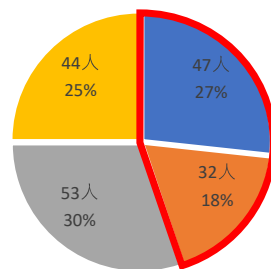
「そう思う」「どちらかというそう思う」合わせると **78%**



小学校の時

1クラスだった生徒

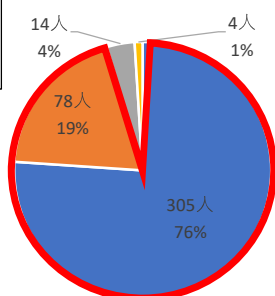
「そう思う」「どちらかというそう思う」合わせると **45%**



小学校の時

2クラス以上だった生徒

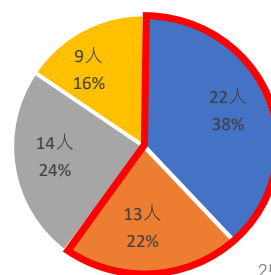
「そう思う」「どちらかというそう思う」合わせると **95%**



1クラスだけの時と2クラス

以上の時があった生徒

「そう思う」「どちらかというそう思う」合わせると **60%**



■ そう思う ■ どちらかというそう思う ■ どちらかというと思わない ■ そう思わない

質疑応答

協議

27

アンケート結果について

設問 昨年度までの再編検討協議会を受けて、子供たちのことを考えて適正規模化をする場合、どのような手法が現実的だと思いますか。

- 1 平方北小学校の児童が他校へ編入する 13人
- 2 平方北小学校の通学区域を拡大し児童を編入させる 2人

28

アンケート結果について

設問 もし、他校への児童の編入とする場合に

- ①どこへ編入とするか
 - ②いつ編入とするか
 - ③編入に伴い通学距離が延びた際の通学方法
- 以外で検討が必要な事項について

- バスによる通学（③に含まれると思われる）
- 編入となる子供たちのケア
- 編入先の学校指定の体育着等
- 職員の異動

29

再編による課題

①どこへ編入とするか

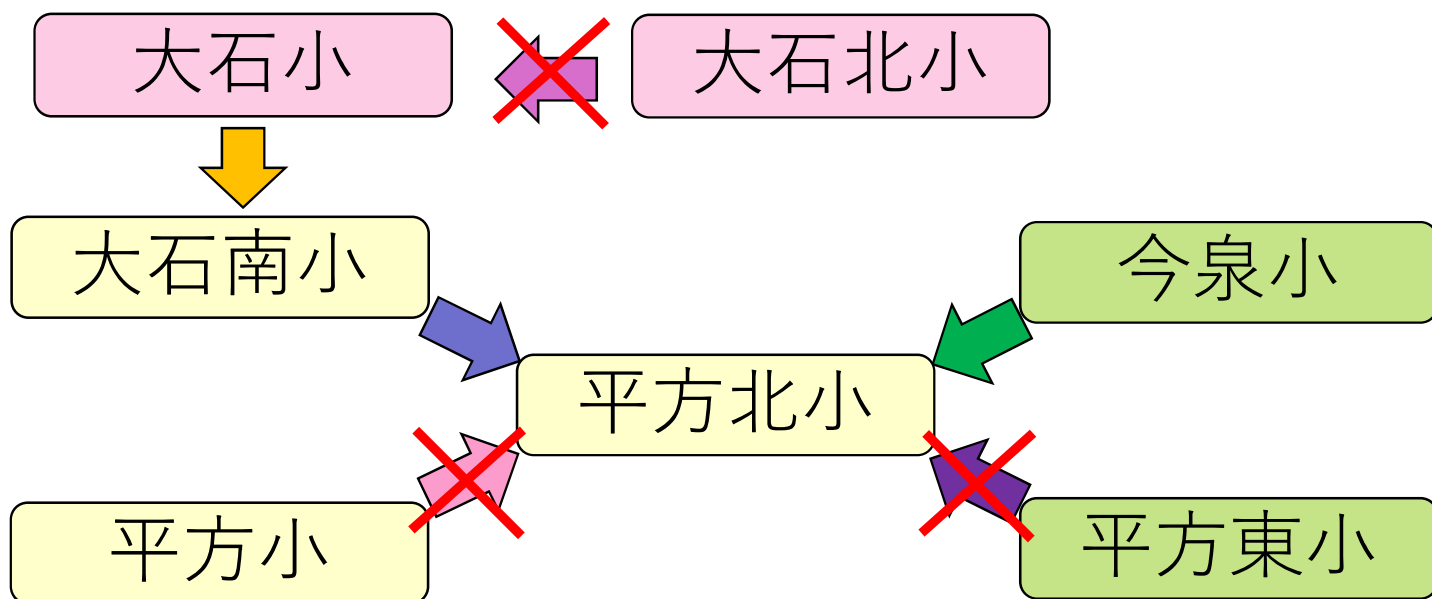


②通学距離が延びた際の通学方法



③いつ編入とするか

30

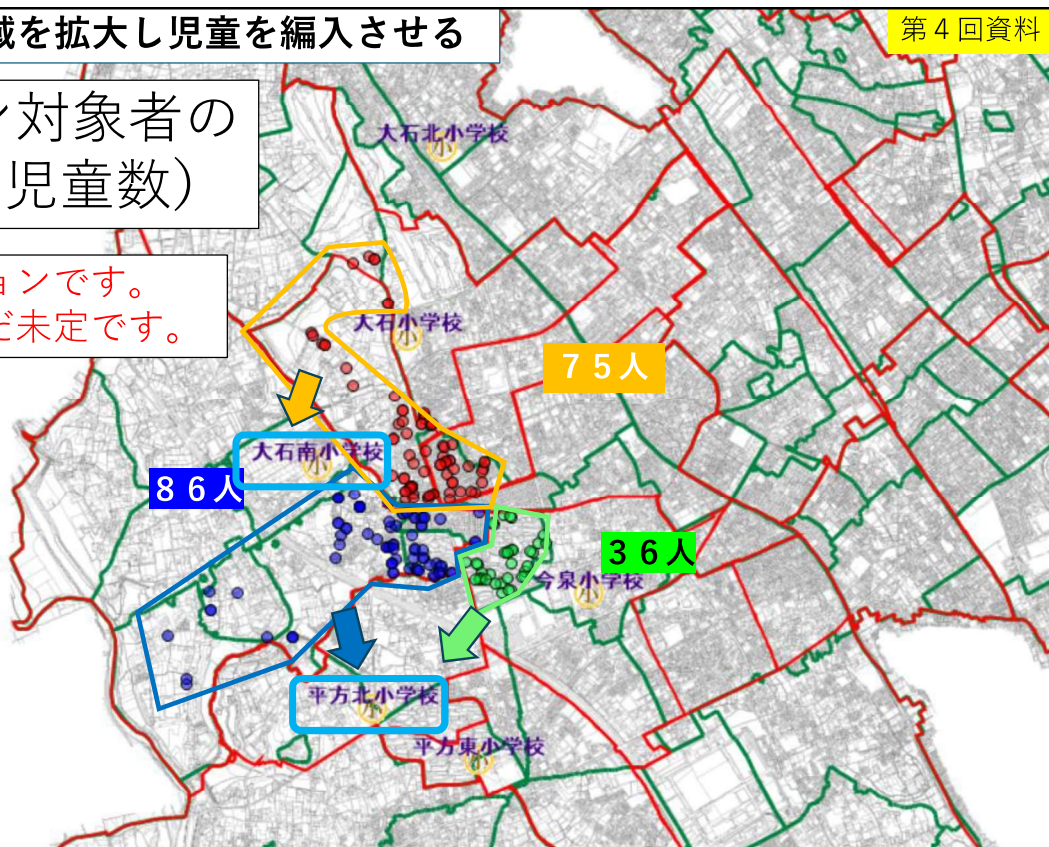


※こちらはシミュレーションです。
平方北小の再編方法はまだ未定です。

シミュレーション対象者の 分布図（R12時点児童数）

※こちらはシミュレーションです。
平方北小の再編方法はまだ未定です。

- 凡例
- 小学校通学区境界
 - 事務区域界
 - 大石小未就学児
 - 大石南小未就学児
 - 今泉小未就学児



○平方北小学校の通学区域を拡大し児童を編入させる

第4回資料

シミュレーションによる編入後の児童数（R12時点児童数）

No.	学 校 名	普通級児童(上段)・普通級学級数(下段)						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
1	大石小学校	90	79	117	84	109	98	577
		3	3	4	3	4	3	20
2	大石南小学校	16	22	34	21	34	25	152
		1	1	1	1	1	1	6
3	今泉小学校	61	68	74	64	90	79	436
		2	2	3	2	3	3	15
4	平方北小学校	42	30	35	39	45	41	232
		2	1	1	2	2	2	10

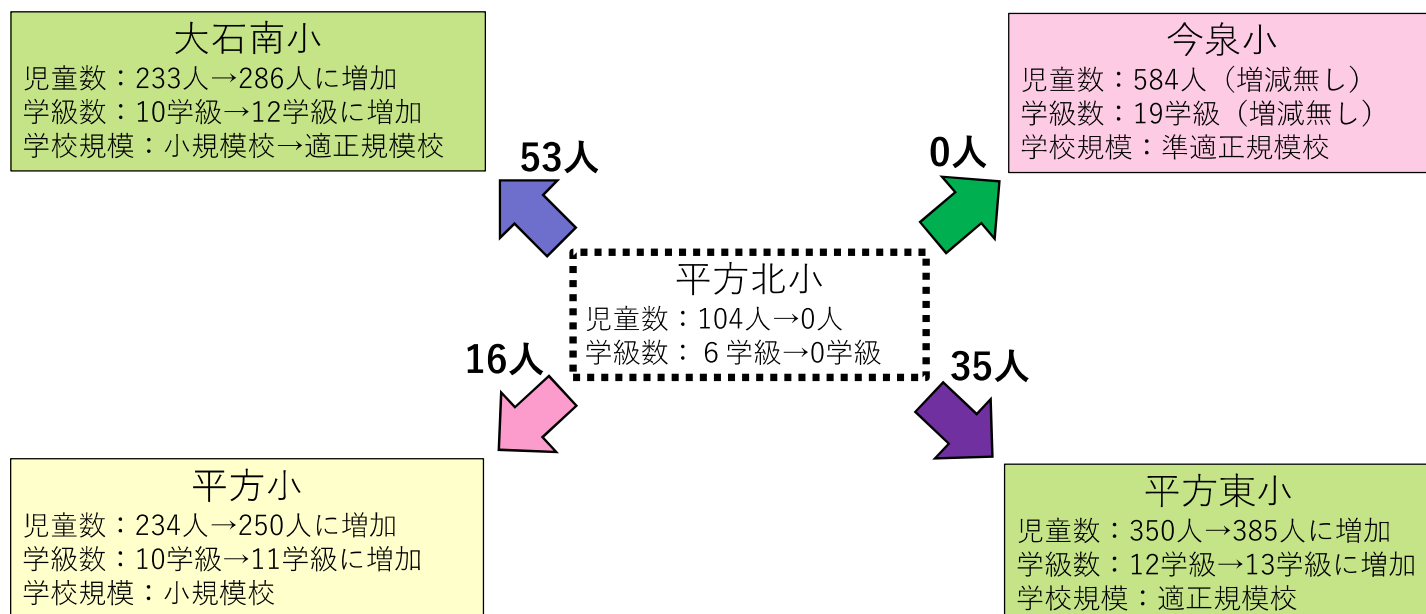
※こちらはシミュレーションです。
平方北小の再編方法はまだ未定です。

○平方北小学校の児童が他校へ編入する

※R6 児童でのシミュレーション

第3回資料

通学距離を考慮して、近隣校が適正規模となるように近隣校の学区を拡大

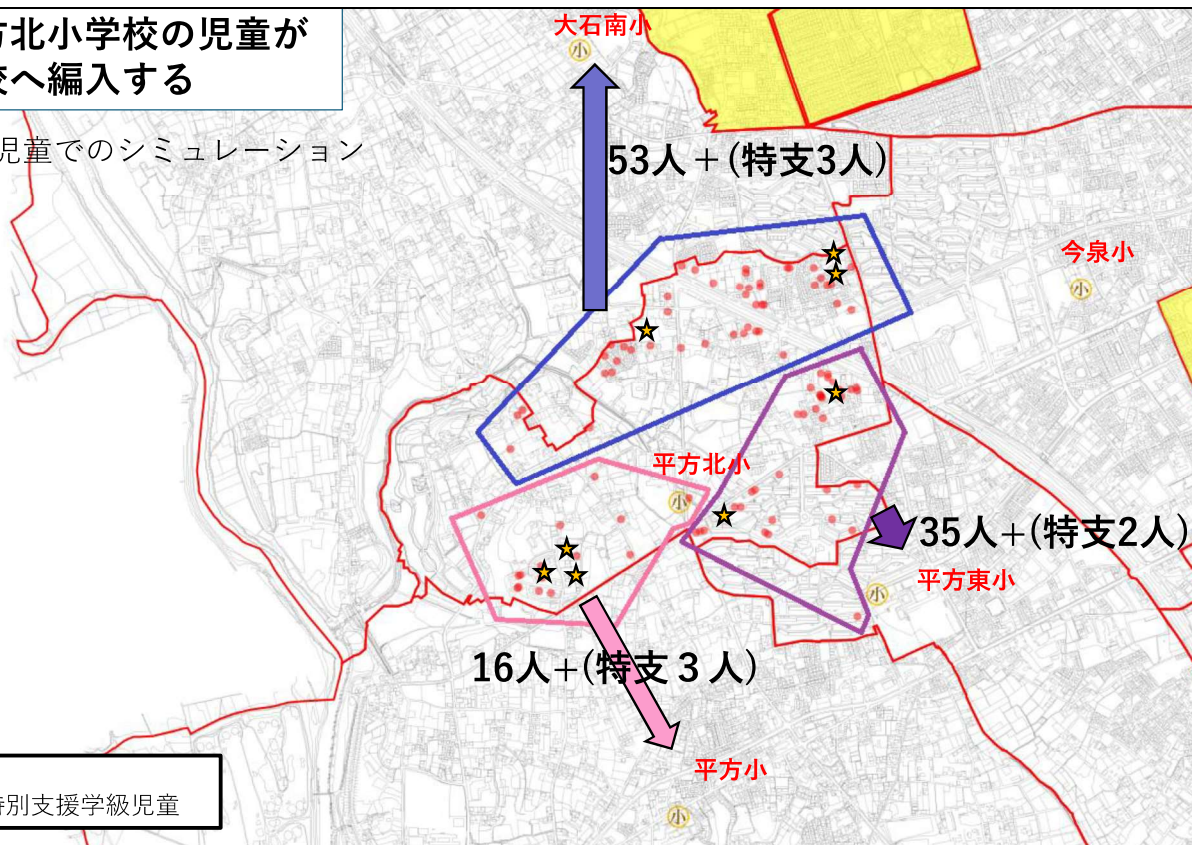


○平方北小学校の児童が
他校へ編入する

第3回資料

※R6児童でのシミュレーション

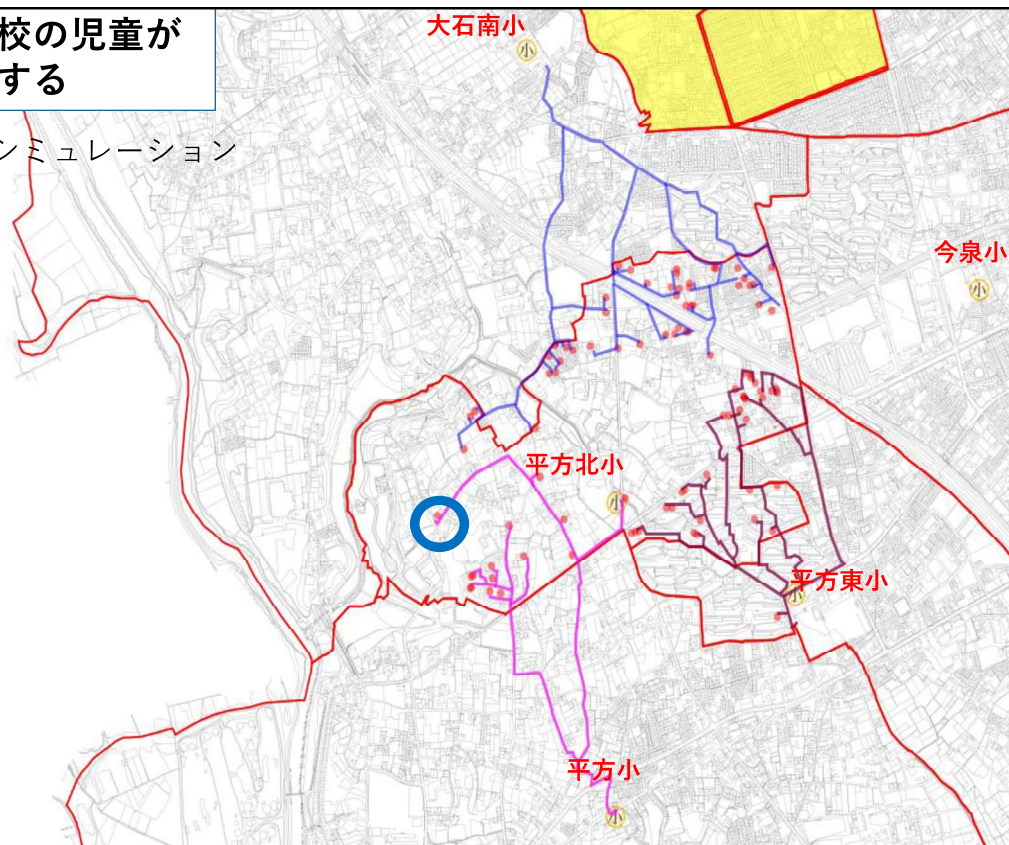
凡例
★ 特別支援学級児童



○平方北小学校の児童が
他校へ編入する

第3回資料

※R6児童でのシミュレーション



○平方北小学校の児童が他校へ編入する

アンケート結果について

設問 もし、他校へ児童を編入する場合、他校への児童の編入の行い方についてよいと考える方法はどれですか。

- 1 居住地から近い学校を選べるようにする 9 人
- 2 すべての児童を同じ学校に編入する 1 人
- その他
 - ・ 基本 1 だが、在校生についてはより柔軟に対応する。
 - ・ 付近の学校（1 k m 目安）で選べるようにする。
 - ・ 基本 1 だが、遠い場合はバス通学も検討する。
 - ・ 基本 1 だが、柔軟に選べるようにする。
 - ・ 編入先を選択できるようにする

37

○平方北小学校の児童が他校へ編入する

他市町村の編入の行い方

	編入方法	通学距離
北本市	児童全員を一つの学校へ編入。距離が近い学校ではなく、同じく小中一貫教育を実施している学校へ編入とした。	望ましい通学距離の基準がおおむね 3 km キロであり、それを超える児童はいなかった。
鴻巣市	在校生に限り、近隣校か主たる編入校か選択できるようにした。その後の新入生は近隣校へ入学とした。	主たる編入校を選択し、通学距離が直線距離で 2 km を超える場合はスクールバスを利用できる。
熊谷市	児童全員を一つの学校へ編入。「全学年で単学級」となることが見込まれる複数校のうち一つの学校に統合し、学校名を新しく変更した。	他校へ編入することになった学区の児童については、スクールバスを利用できる。

○平方北小学校の児童が他校へ編入する

大石南小

児童の通学距離について



今泉小

— 小学校校区
— 事務区

平方東小

平方小

各地区の中心部から各学校までの距離

	平方小	平方東小	大石南小	今泉小
①	約1.8km	約1.7km	約1.5km	約2.2km
②	約1.0km	約1.2km	約1.9km	約1.9km
③	約1.1km	約300m	約2.0km	約1.3km
④	約1.9km	約1.0km	約1.4km	約1.2km
⑤	約2.2km	約1.2km	約1.3km	約1.0km

協議の内容

【協議していただきたい内容】

再編手法における課題・懸案事項「①どこへ編入とするか」

【頂いた意見の概要】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

協議の内容

【協議していただきたい内容】

再編手法における課題・懸案事項「②通学距離が延びた際の通学方法」

【頂いた意見の概要】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

41

協議の内容

【協議していただきたい内容】

再編手法における課題・懸案事項「③いつ編入とするか」

【頂いた意見の概要】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

42